



AFS通信

For Participants & Volunteers

発行：(財)エイ・エフ・エス日本協会 事務局長 大山 守雄 編集：プログラム支援室 溝部悦子

初春号
No.30

Feb, 2005

AFS 体験がもたらすもの ~ AFS 世界大会基調講演より ~

猪口 邦子 (前軍縮会議日本政府代表部特命全権大使 / 上智大学法学部教授、16期('69-'70) 米国)

=====

当協会の50周年にちなみ、昨年10月に富士吉田市でAFSの世界大会が開催され、国際本部やAFSのパートナー国の代表者が一同に会し、AFSの使命や目的を確認すると同時にこれからの方向性について活発な意見交換を行いました。

今号では、猪口邦子教授によるAFS世界大会における基調講演の内容をご紹介します。

=====

「AFSの体験は、有能な人間を育てる教育的なプログラムであり、そのようなプログラムこそが、今の、そしてこれからの国際社会では必要とされている」 - 猪口教授は、ご自分のAFS留学体験と外交官としての経験を振り返り、AFS体験から得られたことがらをつぎの点にまとめてお話をくださいました。

よいコミュニケーターとなる機会を与えられた

恥ずかしがりやの高校生だった猪口さんは、よくホストマザーから「自分の意見を持って、それをはっきり言いなさい」と言われたそうです。AFSの一年を通して、自分の思っていることを人に伝えることの大切さやどのように伝えたらよいかということを経験することが、軍縮大使として役立ったとのことでした。

時間をかけて信頼関係を築くことの大切さを学んだ

信頼を得ることは外交交渉においてとても重要で、それにはまず相手を信頼しなくてはなりません。人から信頼を得るためには、自分のことを相手に伝えるだけでなく、相手の考えや必要としていることなどをよく知ろうとしなくてはなりません。そのためには、感受性を働かせて相手の話をよく聴き、忍耐強く取り

組むことが大切ですが、これは一朝一夕に実を結ぶことではありません。信頼していることを相手に示し、信頼を得る努力を続けていけば、必ず自分も信頼され、それがよい結果をもたらすことを体験的に学んだことにより、外交交渉も時間をかけて忍耐強く行うことができ、成果を得られたとのことでした。

自分に強い責任感が育った

橋本内閣の行政改革会議の紅一点のメンバー、学者として初の大使など、猪口教授の活躍の場は多岐にわたりますが、この活躍を支える強い責任感について猪口教授は「人から教えられて得られるものではなく、体験から学び取って初めて得られるもの」と話していらっしゃいました。AFS生としての一年は、その責任感を育む体験の場として絶好のものだったそうです。

地域が支えることの重要性を学んだ

「地域の人々が支えてくれていたおかげで、ホストファミリーは私を受け入れてくれることができた」という信念から、猪口教授は、外交官として政策を策定する際に、必ず、地域を参画させるように心がけたそうです。

今号のトピックス

受入体験を振り返る	2	滞在後半期を迎えて - 年間(秋)受入生 -	3
帰国後の生活と再適応	4	滞在後半期を迎えて - 51期夏組派遣生 -	5
留学生活のスタートにあたり	6	Information	7
日本協会今後の予定(2005年2月~4月)			8

「AFS の体験は、有能な人間を育てる教育的なプログラムであり、そのようなプログラムこそが、今の、そしてこれからの国際社会では必要とされている」 - 猪口教授は、ご自分の AFS 留学体験と外交官としての経験を振り返り、AFS 体験から得られたことがらをつぎの点にまとめてお話をいただきました。

よいコミュニケーターとなる機会を与えられた

恥ずかしがりやの高校生だった猪口さんは、よくホストマザーから「自分の意見を持って、それをはっきり言いなさい」と言われたそうです。AFS の一年を通して、自分の思っていることを人に伝えることの大切さやどのように伝えたらよいかということを実験的に学んだことが、軍縮大使として役立ったとのことでした。

時間をかけて信頼関係を築くことの大切さを学んだ

信頼を得ることは外交交渉においてとても重要で、それにはまず相手を信頼しなくてはなりません。人から信頼を得るためには、自分のことを相手に伝えるだけでなく、相手の考えや必要としていることなどをよく知ろうとしなくてはなりません。そのためには、感受性を働かせて相手の話をよく聴き、忍耐強く取り組むことが大切ですが、これは一朝一夕に実を結ぶことではありません。信頼していることを相手に示し、信頼を得る努力を続けていけば、必ず自分も信頼され、それがよい結果をもたらすことを体験的に学んだことにより、外交交渉も時間をかけて忍耐強く行うことができ、成果を得られたとのことでした。

自分に強い責任感が育った

橋本内閣の行政改革会議の紅一点のメンバー、学者として初の大使など、猪口教授の活躍の場は多岐にわたりますが、この活躍を支える強い責任感について猪口教授は「人から教えられて得られるものではなく、体験から学び取って初めて得られるもの」と話していられました。AFS 生としての一年は、その責任感を育む体験の場として絶好のものだったそうです。

地域が支えることの重要性を学んだ

「地域の人々が支えてくれていたおかげで、ホストファミリーは私を受け入れてくれることができた」という信念から、猪口教授は、外交官として政策を策定する際に、必ず、地域を参画させるように心がけたそうです。